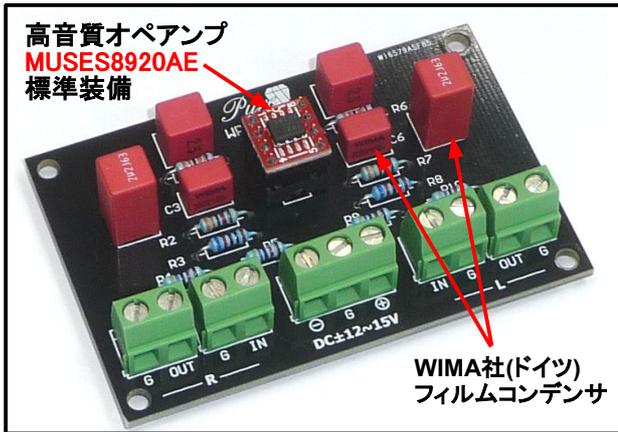


フォノイコライザ基板完成品

WP-EQAMP



- 高音質オペアンプ「**MUSES8920AE**」を搭載
(8Pソケット採用により他のオペアンプと交換可能)
- ドイツ「**WIMA**」社製フィルム コンデンサなど
高音質パーツで構成
- MM型カートリッジに対応
MC型カートリッジには「昇圧トランス」や「ヘッドアンプ」が必要です
- RIAA補正回路・・NF型 出力電圧・・約200mV

KYORITSU
共立電子産業株式会社



●主な仕様

- ・電源電圧 DC±12V～±15V
- ・ゲイン(増幅率) 約35dB(58倍)
- ・RIAA偏差 ±1dB以内
- ・消費電流 約12mA
- ・RIAA補正回路 NF型
- ・入力抵抗 47kΩ
- ・適合カートリッジ MM型
- ・基板寸法 幅72mm 奥行き47mm 高さ14mm
- ・推奨電源は裏面に記載しています

*本基板はMMカートリッジに対応しています。
MCカートリッジを接続するには「昇圧トランス」もしくは「ヘッドアンプ」が必要です。

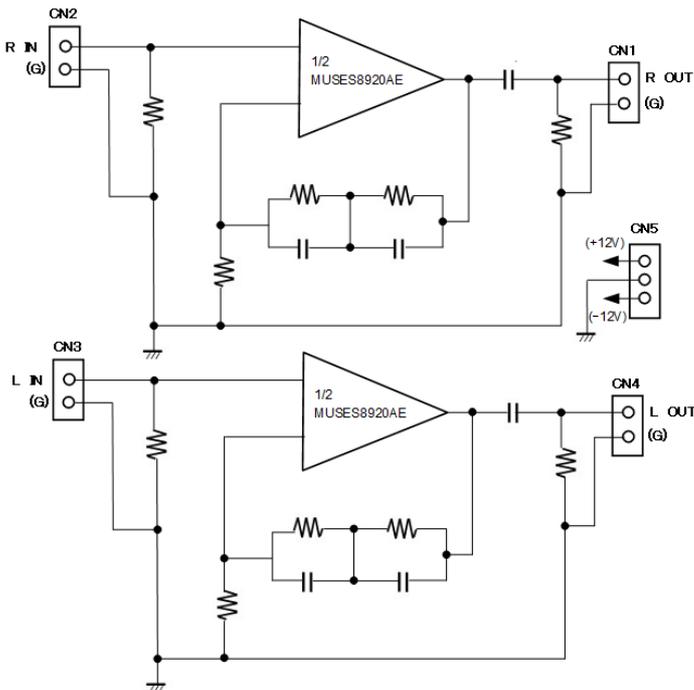
●お断り

- ・本製品およびそれらを構成するパーツ類は、改良・性能向上のため予告なく仕様・外観等を変更する場合がありますをあらかじめご了承ください。
- ・本製品は半完成品です。
完成品でない製品の性格上、組み立て後にお客様が期待される性能・品質・安全運用等の保証はできません。
完成後はお客様(組立作業)ご自身の責任のもとでご使用ください。
- ・本製品は機器への組み込み他、工業製品としての使用を想定した設計は行っておりません。また、本製品に起因する直接、間接の損害につきましては当社修理サポートの規定範囲を超えての補償には応じられません。

販売元:共立電子産業株式会社
共立プロダクツ事業所

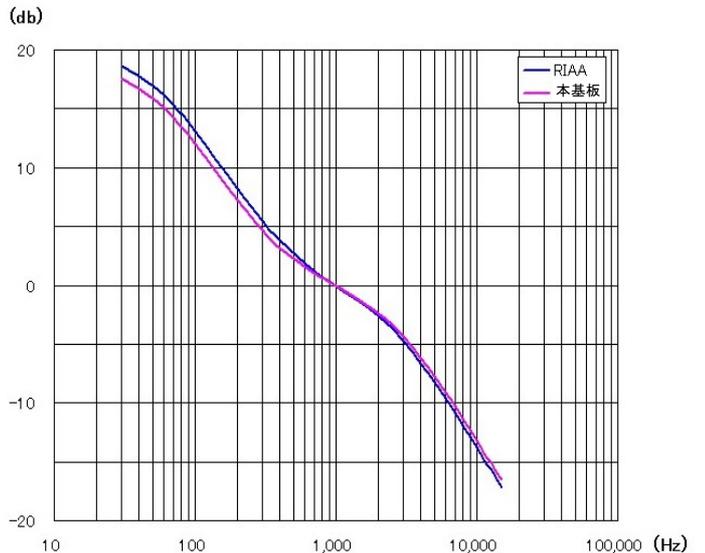
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-8-26
TEL 06-6644-4447 FAX 06-6644-4448

●回路図



一部非公開
(商品に添付されている説明書にはすべて記載されています)

●周波数特性実測例

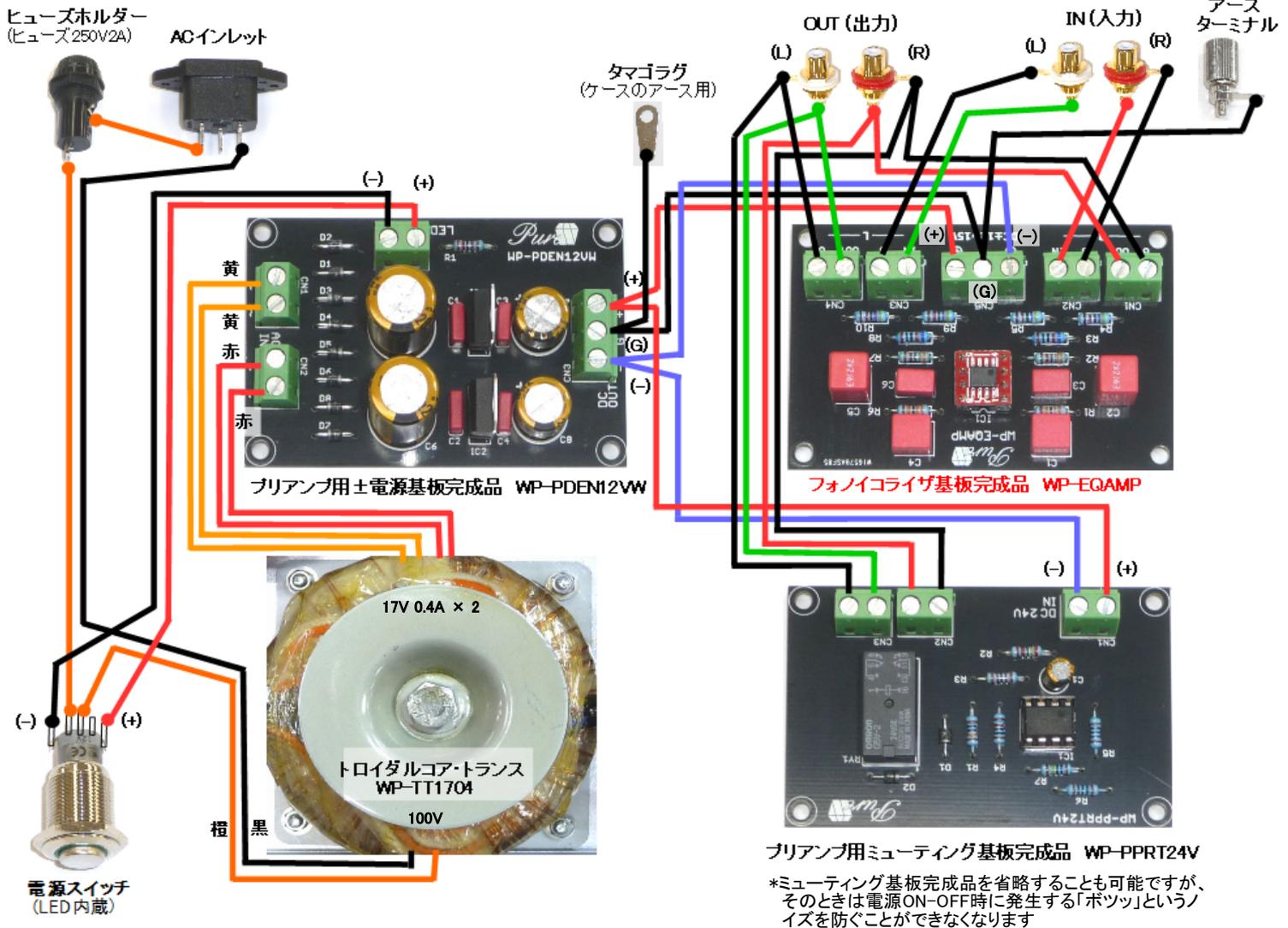


●フォノイコライザの役わり

- (1)MMカートリッジの出力(約5mV)をラインレベル(約200mV)まで増幅します
- (2)RIAA補正をします
レコード盤はノイズを低減するための工夫として高域を上げて、低域を下げて録音されています。
米国レコード協会(RIAA)にて周波数ごとに増減のレベルが規定されており、再生時にはその逆のレベルで補正する必要があります。
これをRIAA補正と呼び、上図のような周波数特性になっています。
本基板はRIAAと比較して偏差が±1dB以内に収まっています。

●電源基板や入出力端子との接続例

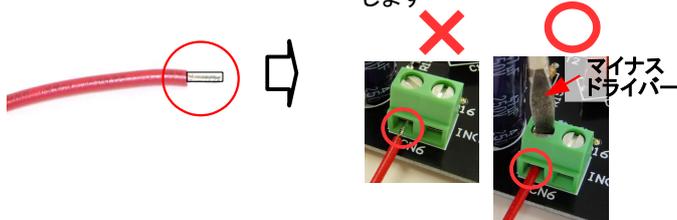
「フォノイコライザ基板完成品」以外はすべて別売です



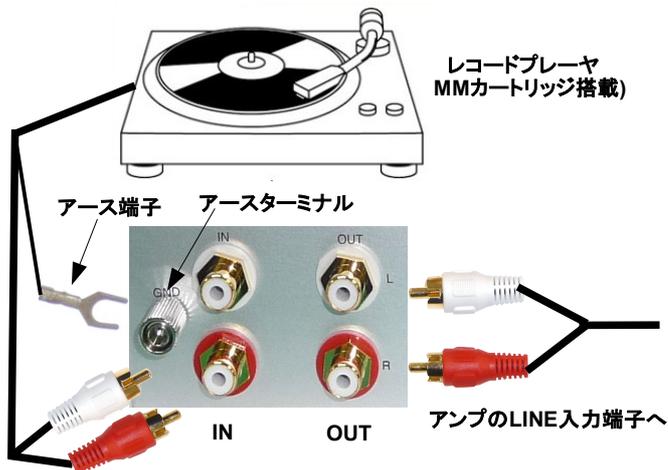
●ネジ端子の接続方法

①配線材の先端被覆を6~7mmはがしてハンダメッキします

②ハンダメッキしたところを端子の奥まで挿し込んでネジ止めします



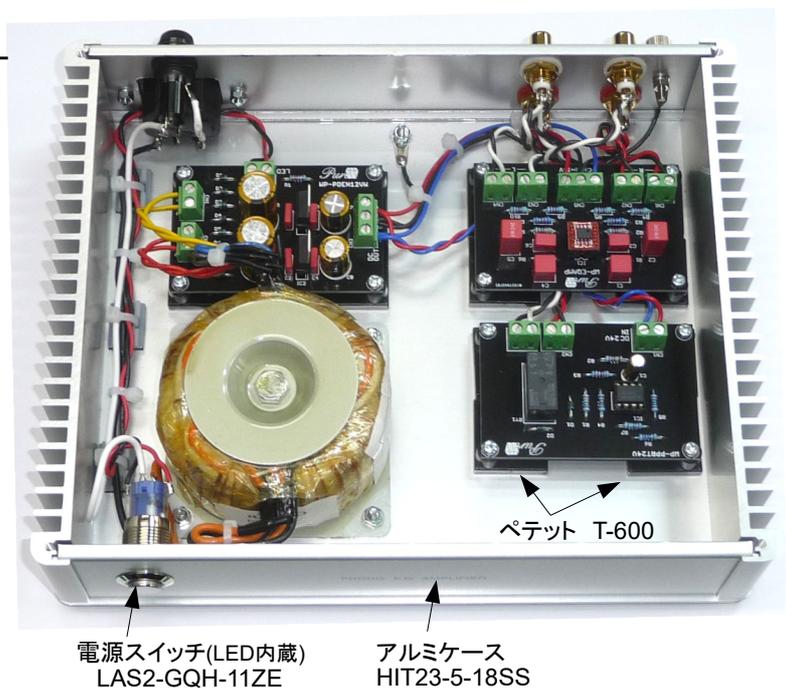
●レコードプレーヤおよびアンプとの接続方法



*レコードプレーヤから出ている「アース端子」をフォノイコライザの「アースターミナル」に接続します。これを怠ると「ポーン」というハムノイズが発生することがあります

●フォノイコライザ製作事例

上記「接続例」に倣って、基板やトランスを「タカチ電機」製のアルミケースに組み込んだ製作事例です



3枚の基板は「ペットット」を使用し、底板から10mm浮かせて取り付けられています